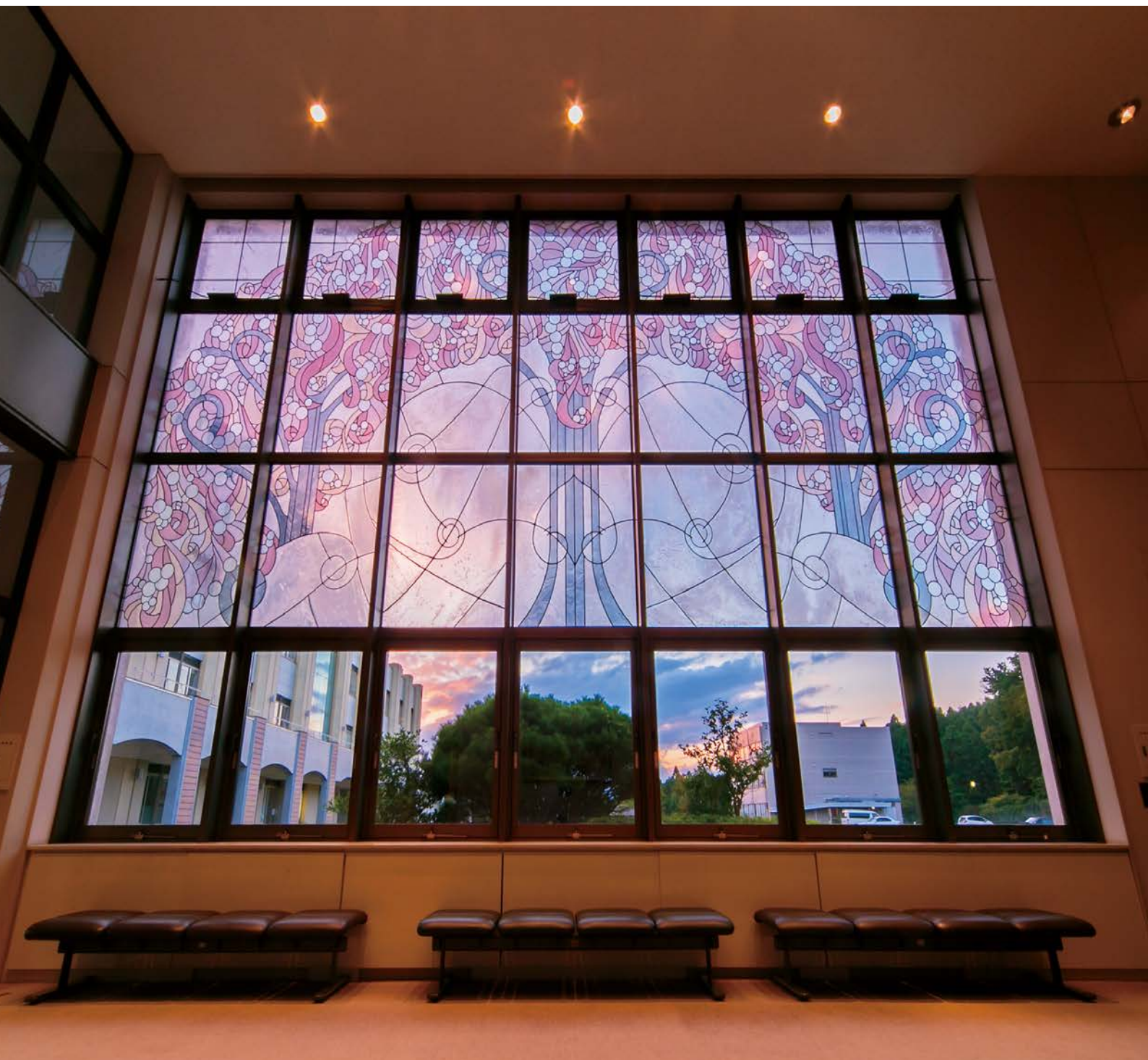


Shirayuri

仙台白百合女子大学後援会報

No.5
2016.3

仙台白百合女子大学後援会



Contents

- 2 学長挨拶
後援会会長挨拶
- 3 部会活動報告
- 4 事業活動報告
- 4・5 課外活動支援報告

- 6 2016(平成28)年度 行事予定
2015(平成27)年度 理事名簿 など
編集後記



学長挨拶

仙台白百合女子大学 学長 牛渡 淳



後援会の皆様。お変わりございませんか。常日頃から、本学の活動に対しまして多大なご協力を頂きありがとうございます。

さて、本学は、1966年に短期大学としてスタートし、その後1996年に4年制大学となりましたが、2016年には、仙台で高等教育機関としての活動を始めてから50周年を迎えます。この記念すべき年を祝い、7月2日に、本学講堂にて記念式典を開催いたします。本学のこれまでの在り方を振り返り、さらに、今後の本学の在り方を考える機会にしたいと思います。

現在、わが国の大学は、少子化の荒波にもまれ、冬の時代を迎えておりますが、本学も例外ではありません。しかし、わが国の将来を担う有為な人材を社会に送り出すべく、教職員一同力を合わせて日々努力を重ねており

ます。また、白百合の伝統を守りながら新たな時代にチャレンジする、そのような姿勢で大学改革に取り組んでおります。

特に、本学では、社会のグローバル化に対応するため、学内にグローバル・プロジェクトをスタートさせ、様々な取り組みを行っています。その一環として、フィリピンにある本学の姉妹校セント・ポール大学6校との連携を強めていく予定です。実際、この4月より、セント・ポール大学のメアリー・アン先生を招聘し、学生の英語力の飛躍的な向上に取り組んでいただくと同時に、教職員の英語力向上にもお手伝い頂くことになっていきます。また、これまで交換留学生のみであった外国からの留学生に加えて、平成28年度入試より、外国人留学生特別入試を実施し、外国人留学生数を増やしたいと考えています。

その他、教学改革と地域連携の取り組みを強化したことにより、平成27年度は、「私立大学等改革総合支援事業」による補助金を2件獲得することができました。また、大学では、教育の裏づけとなる教員の研究の質的向上も求められておりますが、教育研究推進委員会による様々な支援活動もあり、年々、教員による科研費申請件数も増えております。

このように、教育と研究の質的向上に向けて様々な取り組みを行っておりますので、今後とも、引き続き、本学の教育にご支援いただきますようお願い申し上げます。

後援会会長挨拶

仙台白百合女子大学後援会 会長 千葉 隆政



仙台白百合女子大学後援会会員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動へのご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

お陰様を持ちまして、2015年度も、会の目的である「在学生保護者・大学教職員との連携を密に一致協力した活動を通じて、学生生活の向上、更には大学発展への寄与・会員相互親睦を図ること」に向け、2014年度から改変した次の3部会の下、滞りなく事業を進めることができました。

- ①大学連携部会：
大学の奨学金、キャリア支援、学生の課外活動の充実などを支援。
- ②事業部会：
卒業記念品贈呈や「白百合祭」参加など後援会独自事業を実施。
- ③広報部会：
広報誌発刊、ホームページ制作。

以上、3部会の事業に加え、今年度は、次の取組など事業を展開し、後援会活動をさらに充実させることができました。

- ①大学における学生生活の質的向上のため、AEDの設置や学内電子レンジの更新などを行いました。
- ②学生達のメインイベントである白百合祭の

充実のために、バルーンアーチの設置やベガルタ企画への補助などの支援を行いました。また、クラブ、サークルの試合等でも使用可能な大学名の「横断幕」を作成しました。その他に、より多くの父兄に、大学に足を運んでいただけるように、昨年度に引き続き、6月の「後援会総会」開催後に「講演会」を開催するとともに、学生食堂「ステラマリス」で昼食を提供しました。また、「白百合祭」に参加し、講演会のPRを行うとともに、会員相互の懇親を深めました。③後援会会報を作成し、後援会の活動の記録と広報活動を行いました。

私自身、2013年度から3か年にわたり、「会長」の大役を務めさせていただきましたが、「母校」というキーワードに象徴されると思っています。ある大学の校歌に「心のふるさと我が母校」というフレーズがあります。何かがあった時、ふと思い出し心のよりどころになる、そして、学生時代を懐かしみ、訪れなくなるのが「母校」だと思います。

後援会の活動として、学習や課外活動、就職に関する支援などを行うことは、学生生活を向上させ、充実した学生生活を送るための一助となるでしょう。そして「仙台白百合女子大学」の「母校」としてのいっそうの輝き

に繋がります。さらに大学の発展に寄与することは少子高齢化が進む中で、「母校」が存在し続けることにも繋がります。後援会活動は、学生達の卒業後の人生にも寄与していくものかもしれません。

このような「後援会」に「会長」という立場で携わることが出来たのは、非常に幸運なことだと思っています。これも、その活動を支えていただいた会員の皆様、後援会理事の皆様、そして、大学関係者の皆様のおかげだと思っています。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

「後援会」活動は、来年度以降も、「学生生活の向上、更には大学発展への寄与」などのため、ますます充実していくものと思います。今後も、会員の皆様方には、このような後援会活動への、ますますのご理解と、ご支援、ご協力とともに、一人でも多くの皆様の積極的なご参画をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

部会活動報告

第5回後援会総会 報告

第5回後援会総会が2015年6月20日（土）に仙台白百合女子大学講堂において開催されました。2014年度の事業報告・決算報告、2015年度の事業計画・予算案、理事の選出が審議され、第1号議案から5号議案が承認されました。

後援会総会終了後、本学グローバル・スタディーズ学科 教授 大本泉先生の「作家の好食・哀食」という演題で大変興味深い講演が行われました。大本泉先生は日本ペンクラブにも所属され、食文化を通して日本文学を拓く研究もなされており、主な著書に「名作の食卓」角川書店出版、「永井荷風 仮面と実像」ぎょうせい出版等多数あります。是非一度手にとってみられてはいかがでしょうか？

ランチタイムでは昨年に引き続きステラマリス（学生食堂）にて学生に人気のオムライスを食する機会に、多くの参加者からご好評を頂きました。まだ、総会に出席された事の無い方も、次回は是非ご参加下さい。当日ご出席くださった皆様には厚く御礼を申し上げます。

（大学連携部会 佐藤 文彦）



事業部会活動報告

講演会を開催致しました。

開催日：2015年6月20日（土）
時 間：第5回後援会総会終了後11:30～
場 所：講堂
講演者：仙台白百合女子大学グローバル・スタディーズ学科 教授 大本泉 氏
演 題：「作家の好食・哀食」

昨年から引き続き後援会総会にご出席の保護者の皆様には、講演会終了後、ステラマリス（学生食堂）にて日ごろ学生に大人気のオムライスのランチを無料で提供させていただきました。多くの保護者の皆様大変好評でした。

（事業部会 鈴木 俊一）



大学連携部会活動報告

大学連携部会では、学生への支援授業の一環として「奨学支援」「課外活動支援」「キャリア支援」をおこなっています。奨学支援では、後援会からの奨学金援助金（300万円）を支出し、これを大学奨学金と一体運用して、経済的困難学生支援として、学生対象者12名に240万円を支援。残金は東日本大震災授業料減免支援として、対象者30名に支援金額60万円を支援補助しました。勉学奨励としては、人間発達学科の学生に対して7月31日より1泊2日で蔵王高原で行った野外研修に支援補助しました。幼保学生のためのワークショップ等のプログラムに対しても順次支援しています。心理福祉学科の学生には、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験対策を行い、資格取得を目指す学生を支援することを目的として支援補助しました。健康栄養学科の学生においては、4年生に対し管理栄養士国家試験対策講座にかかる費用への支援補助しました。グローバル・スタディーズ学科の学生に対しても各種資格能力検定の団体及び個人の受検料を支援補助しました。

課外活動支援では、白百合祭において使用する茶道部御園柵及び白百合祭にかかる宣伝費用等に支援補助しました。

事業部白百合祭支援といたしまして、50回目を迎える白百合祭の学生企画に対して30万円の支援をしました。ベガルタ企画やバルーンアート等は華やかさも添え、非常に好評でした。

キャリア支援においては、1～3年生（62名）を対象に公務員試験対策基礎講座、3年生受験希望者を対象に実施された各種模擬試験への支援補助しました。

後援会といたしましては、仙台白百合女子大学の学生が安全かつ安心して学生生活を送ることが出来るように大学側と一緒に連携をとりながら頑張って活動を続けて参ります。

（大学連携部会 伊藤 淳美）

広報部会活動報告

広報部会は、今年度も後援会会報「Shirayuri」の発刊、ホームページの更新を中心に取り組んできました。また、会報を保護者の皆様にお届けする業務を担っています。

この会報は1年に1回の発刊のため、広報部会としての実質的な活動は11月から3月までとなります。それ以外の期間は、後援会の理事として理事会、後援会総会、白百合祭などで活動しています。

主たる活動の会報「Shirayuri」製作は、年度初めに広報部会で作成についての方向性を決めています。年間を通して、大学の行事や学生の皆さんの活動を支援する事業の際に、写真での記録や学生の皆さんからの声を集めています。また理事の皆さまから、それぞれの担当ごとに寄稿していただいています。このような生の声を会報に掲載することで、会員の皆様に、より後援会をご理解いただけるものと思っています。最終工程である「表紙」を飾るステントガラスの写真選びは、大学構内の美しいステントガラスを見ながらの作業で、毎年心がわくわくしています。

これらのすべての工程は、大学の大きなバックアップのもとに成り立っており、今年度もスムーズに作成、発刊を行うことができました。ご協力に感謝いたします

最後になりますが、ホームページも随時更新していますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

（広報部会 清水 恵子）

事業活動報告

白百合祭に参加して

今年は記念すべき「第50回白百合祭」が行われ、昨年に引き続き後援会として参加させていただきました。

後援会メンバーによる模擬店のメニューは昨年同様『白百合チャーハン』。

後援会の定番メニューにしたいというメンバーの強い願いもあり販売させていただくことになりました。

白百合祭1日目・・・風が冷たいながらもお天気に恵まれ、中庭で学生達のテントに並び販売しました。後援会メンバーのチームワークの良さもあり、父たちが調理し母たちが販売をするという役割分担が自然にでき、和気あいあいと楽しく販売することができ短時間のうちに「完売」いたしました。

完売後は、中庭で販売する学生達の模擬店で買い物をしたり、大学内で発表などを見たり、餅まきやゲームに参加したりと後援会メンバーも若かりし頃にに戻り大いに楽しむことができました。日頃、目にすることができない学生達や先生方の貴重な一面をみることができ、とても楽しい一時を過ごすことができました。

白百合祭2日目・・・強風により中庭で販売することができず『白百合チャーハン』の販売が危ぶまれましたが、校舎内での販売に変更となり大学の調理器具をお借りし、なんとか調理・販売することができました。ネギ油を熱し香ばしい匂いにさそわれ、保護者や学生、一般のお客様など多くの方々にご購入いただき「美味しかったよ」と喜んでいただきました。

白百合祭の参加は今回で3回目となります。各方面の方からご協力、ご尽力いただき、成功のうちに終了することができました。また売上にご協力いただきました先生方・学生の皆様に深く感謝し御礼を申し上げます。

(事業部会 佐藤 英子)

A E Dの設置報告

平成26年度の仙台白百合女子大学後援会事業部会の活動の一環として大学構内2箇所にA E D（自動体外式除細動器）を設置いたしました。これまで大学におけるA E Dは保健室に1台だけしか設置されておらず、大学構内で不測の事態が生じた時、特に授業やクラブ・サークル活動で体を動かす機会の多い体育館で発生した場合において、A E Dを持ち出すまでにかなりの時間を要し、対応が遅れてしまうことにより人命に危害を及ぼす恐れがありました。そこで、



このようなことが起こらないよう、学内のどこにいても数分でA E Dが持ち出せる事を考慮して、体育館入口と3号館学生出入口の2箇所にA E Dを設置いたしました。加えて設置にあたり、体育館は正門に入ってすぐの場所に位置しているので、「いざ」というときには、大学関係者のみならず、近所にお住まいの方にも利用していただくことを想定しています。

(事業部会 佐藤 啓朗)



平成 28 年 2 月 2 日 学生対象 AED 講習会の様子



課外活動支援報告

白百合祭



10月24日(土)・25日(日)に行われた第50回白百合祭では、仙台白百合女子大学後援会様から多大なるご支援をいただきました。まずは後援会の皆さまには心から感謝申し上げます。ご支援いただいた援助金は、校内を飾るバルーンアート、ペガルタ企画、第50回記念缶バッジ、5大学企画に使用させていただきました。バルーンアートは強風のため設置場所を急遽変更するなどのアクシデントがあったものの、色とりどりの風船や動物のバルーンアートで作られた記念撮影コーナーを設け、多くのお客様から「楽しい」とのお声を頂きました。ペガルタ企画では、ペガルタ仙台の元選手で現在はアンバサダーとしてご活躍中の平瀬智行さんをお招きしてトークショーを行いました。学内の学生だけでなく学外からも多くの方が来場し、もちまき（強風のため手渡しになってしまいました）では、サイングッズを手入れようと長蛇の列ができました。第50回記念缶バッジは実行委員がデザインしたものを、5大学企画の横断幕へのメッセージ記入にご協力いただいた方に差し上げました。白百合祭のオリジナルキャラクターのうさじいやステンドグラス風のデザインで、特に女性の方に好評でした。5大学企画では泉区役所が協定を結んでいる東北学院大学、宮城大学、東北生活文化大学、聖和学園短期大学、仙台白百合女子大学のそれぞれの大学祭で「こんな泉区にしたい」というテーマで横断幕に泉区への希望や要望を書き込み、最終的には一枚につきぎ合わせました。そして12月7日に5大学の代表として泉区役所を訪れ、泉区長に直接横断幕を贈呈し「今後の泉区発展のため若い力が必要である」と激励をいただきました。

後援会からのご支援のおかげで、第50回という節目の年に相応しい白百合祭を作り上げることができました。本当にありがとうございました。(第50回白百合祭実行委員長 吉澤 和)

新しい御園棚

今年度、後援会の皆様のご厚意により、茶道部の活動で使用する御園棚の購入に対するご支援を頂きました。

御園棚は立礼席という、テーブルと椅子を用いて行う御点前で使用されるものです。今まで使用していたものは、金具部分が外れていたり、壁面にひびが入っていたり経年劣化していました。新しい御園棚が届けられたことにより、以前よりお稽古が有意義なものになり、スムーズに活動できるようになりました。茶道部一同、後援会の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

先日白百合祭では、新しい御園棚を使用してお茶席を設けました。慣れない着物を身にまとい、きこない所作ではありましたが、皆で協力し、良いお茶席を開くことができました。仙台白百合女子大学の第50回白百合祭という節目にとっても貴重な経験を行うことができました。お茶席にいらしたお客様は、小さなお子様からご年配の方まで様々で、とても賑わいました。なかには、他の大学の茶道部の方や卒業された先輩もおいでになり、人と人とのつながりの偉大さ・大切さを身をもって実感することができました。

私たち茶道部は、顧問の茂木千明先生、茶道講師の小貫トシ子先生のご指導の下、部員15名で和気あいあいと活動しています。作法やおもてなしの心を学び、季節感を味わいながらお稽古に精進しています。この御園棚を長く大切に使い続け、茶道の気持ちと共に人から人へたすきを渡すように繋いでいくことができれば良いと思います。

後援会の皆様、この度は誠にありがとうございました。(茶道部部长 千葉 惟寿美)



野外活動実習での学び

12月19日、20日に人間発達学科16名で蔵王坊高原にて野外活動実習に参加させていただきました。当日は雪が少なく、メインとして予定していたアルペンスキーはあまりできませんでした。かんじき体験やクロスカントリースキーといった、私たちににとってはとても珍しい、貴重な経験をさせていただくことができました。

野外活動は普段の授業とは異なる「楽しさ」があり、「学び」があります。これは幼稚園や小学生の頃から、大学生となった今日でも変わらないことだと思います。仲間とスキーをし、食事を作り、レクリエーション活動をし、その活動一つ一つには大きな学びがありました。仲間と共に楽しみ、笑い、協力し、助け合う。それが当たり前のようになれるのは、野外活動の最大の良さであり、そこから得るものはとても大きなものだと思います。

また、私は1日目に寒暖差アレルギーが発症し、蕁麻疹が出ました。非常に驚きましたが、施設の方がすぐに診てくださり、大事に至ることはありませんでした。普段アレルギーを持っていないくとも、今回のような急激な環境の変化に身体がついていけないことがあるということを、自分自身の体験を通して学ぶことができました。このことは、将来引率の側になって野外活動に参加する場合への学びとなりました。

今回の野外活動実習は、スキー経験の有無にとらわれず、参加者全員が楽しめるプログラムであり、とても有意義な時間を過ごさせていただきましたことができた。このような企画を提案してくださった先生方、そして補助をくださった後援会の方々はこの場をお借りして深く御礼申し上げます。これから後輩たちが多くの経験をすることで、学びにつながるよう今後ともご支援をよろしくお願いいたします。(人間発達学科 小松 和佳奈)



対策講座で深まる理解

私は後援会から援助をいただいている「国家試験対策講座」を受講しています。講師の安部隆雄先生は、はるばる広島からきてくださり、スライドを用いてイラストでわかりやすく説明してくださいます。先生が執筆している参考書(通称“あべ本”)は講義の際にも使用しており、語呂合わせなど覚えやすいような工夫や重要な用語が載っているため、模擬試験の前に見直して活用しています。もう一人の講師である佐々木剛先生は、4月から月に3回程度の頻度で来てくださり、大学での授業とはまた違った視点で指導をしてくださいます。さらに、授業に出席できなかった人のために板書を撮り、動画を撮影して利用できるように配慮してくださっています。授業の途中では周りの人と話し合う時間も設けられ、確認したり分からないことは先生に質問ができるためより理解を深めることができています。

私は普段大学の自習室で勉強をしており、過去の模擬試験の問題や参考書であるクエスチョンバンクを解いていますが、分からなくなった際には阿部先生の本を読んだり、佐々木先生のセミナーの資料を参考にしたりしています。

分りやすい指導で国家試験対策をしてくださる講師の先生とこのような貴重な機会に支援してくださった後援会に感謝しております。今後も講座で得た知識を活かし、残りわずらとなった国家試験までの時間を有意義に過ごすことができるようがんばりたいと思います。



(健康栄養学科 加藤 優花)

補助事業の感謝・御礼

仙台白百合女子大学後援会より模擬試験及び受験対策講座に要する費用の一部補助や、web講座のテキスト代の補助、模擬試験の成績上位者に対して教材をプレゼントして下さいましたこと等とても感謝しております。

7月・10月・11月・12月に行われた模擬試験の受験料を一部補助して頂いた事で、経済的負担が減り、模擬試験を全て受験する事が出来ました。自身の実力を測る機会を多く得る事ができ、国家試験に向けて効率的に勉強するための足懸りとなりました。

受験対策講座は、学内で行われた東京アカデミーの国家試験対策講座と学外で行われた中央法規が主催する国家試験受験対策講座があり、その受講料の補助をして頂きました。東京アカデミーの国家試験対策講座は、学生の希望に合わせた科目が実施されました。そのため、模試で明らかに変わった苦手科目の補強を講座で行う事が出来ました。中央法規の国家試験対策講座は、学外で行われました。一般の方や他大学の学生などの受験生が多く受講していて「国家試験は多くの人が受験するのだ」と身が引き締まりました。

私の勉強方法は過去の問題や模擬試験の問題を繰り返し解いて復習をし、その問題に関連のある知識を確認して暗記するだけで、各科目の繋がりを掴む事が出来ていませんでした。教材をいただいた事で全体像を把握する事ができ、そこから各科目の繋がりを意識して勉強をするようになりました。

後援会の皆様からは多大な支援をして頂いたおかげで、先日行われた国家試験ではこれまでの努力の成果を存分に発揮することが出来ました。大変感謝しております。どうか今後も福祉専門職として社会に貢献していく可能性のある学生に、ご支援の程よろしく願い致します。(総合福祉学科 阿部 愛美)

ランゲージカフェを通して学んだこと

私は、グローバル・スタディーズ学科に所属し、第2外国語として中国語を学んでいます。グローバル・スタディーズ学科には実際に外国人の方と交流できるLanguage Cafe という場が設けられています。Language Cafe は現在、中国語、英語が開講されており、私は中国語を1年生の頃から利用しています。2015年度の後期は毎週金曜日に行われ、中国と台湾からの留学生とお茶を飲みながら中国語を教えてもらったり、日本語を教えたり、お互いの文化交流をしながら楽しく利用させていただきました。自分の空き時間を有効活用できること、授業でわからなかったところを個人的にネイティブの方に聞けること、お互いの文化をより深く話し、知ることができ、無理なく自分のペースで学ぶことができました。留学生とより仲を深めることもでき、今までに出会った留学生とは今もインターネットを通じて交流が続いています。

また、「なま」の中国語を通して授業では学ぶことのできないことを聞けるのも魅力です。私は飲食店でアルバイトをしています。勤務しているお店は、街中のため外国人の方も多く利用されます。私は中国語で接客しようと独学で勉強していましたが、伝わらないことも多く苦戦の連続でした。また、夏にお茶が欲しいと言われて私は冷たいウーロン茶を勧めましたが、その中国人のお客様はどこか不満げでした。そこでLanguage Café にて接客の中国語を留学生に教えてもらいました。そこで気づかされたのは、日本の飲食店での言い回しを重視していたことから根本的な文化の違いを見落としていたことでした。中国では夏でも暖かい飲み物を提供するのが一般的だと聞き、それから中国人の方には冷水の代わりにお湯をお出ししています。

私は長い間、将来の夢としてサービス業やお客様と触れ合える仕事、日本のおもてなしの心を大事にできる仕事に就きたいと考えていました。目指す職業に就いてからもこのLanguage Café で学んだことを精一杯活かしていきたいと思っています。

後援会の皆様には、ご支援をいただきありがとうございました。(グローバル・スタディーズ学科 山本 舞)



2016(平成28)年度 行事予定

前 期	
4月 2日(土)	入学式(イズミティ21)
4月 8日(金)	白百合ウェルカム・フェスティバル
4月 11日(月)	前期授業開始
6月 13日(月)	修養会
6月 18日(土)	後援会総会 1・2年生保護者会
8月 1日(月)	前期授業最終日
後 期	
9月 23日(金)	後期授業開始
10月 21日(金)	白百合祭準備(休講)
10月 22・23日(土・日)	白百合祭
10月 24日(月)	白百合祭代休
10月 29日(土)	就職に関する保護者懇談会(3年生保護者)
12月 16日(金)	クリスマス・ミサ コンサート
12月 22日(木)	年内授業最終日
1月 6日(金)	授業再開
1月 27日(金)	後期授業最終日
3月 16日(木)	卒業感謝ミサ・同窓会入会式
3月 17日(金)	学位記授与式

仙台白百合女子大学後援会 2015(平成27)年度 理事名簿

	氏 名	担当部会
会 長	千葉 隆 政	大学連携部会長
副会長	草野 克 哉	事業部会長
副会長	清水 恵 子	広報部会長
監 事	庄子 裕 子	大学連携部会
監 事	鈴木 俊 一	事業部会
理 事	伊藤 啓 子	大学連携部会副会長
理 事	伊藤 淳 美	大学連携部会
理 事	佐藤 文 彦	大学連携部会
理 事	佐藤 牧 子	大学連携部会
理 事	佐藤 英 子	事業部会副会長
理 事	齊藤 晃	事業部会
理 事	杉本 美 樹	事業部会
理 事	後藤 浩 幸	広報部会副会長
理 事	林崎 扶美子	広報部会
理 事	門間 由 美	広報部会
理 事	渡邊 博 子	同窓会会長

	氏 名	担当部会
顧 問	牛 渡 淳	学 長
副会長	矢口 洋 生	幹部会/グローバル・スタディーズ課
理 事	白 川 充	大学連携部会/学部長
理 事	横 尾 元 意	事業部会/学生部長
理 事	浅 野 浩 子	広報部会/事務局長
理 事	石 岡 宏 美	大学連携部会/事務局次長兼キャリア支援課長
理 事	高 橋 豊	大学連携部会/事務局次長兼会計課長
理 事	泉 田 礼 子	広報部会/学生課長
理 事	佐藤 啓 朗	事業部会/管理課長
理 事	高 橋 千 恵 子	大学連携部会/庶務課長



編集後記

会員の皆様、大学・学生の皆様のご協力の元、無事第5号後援会報を発行することができ感謝しております。

私事ですが、後援会のお手伝いをさせて頂き丸2年が過ぎました。今年も白百合祭に参加させて頂き、生き生きとした学生さんと共に時を過ごせた事もよい思い出となりました。

ぜひ、保護者の皆様も大学に足を運ばれ、お嬢さま方が真剣に取り組まれている姿をご覧頂けたらと思います。大勢の皆様とすばらしい出会いがあるのが仙台白百合女子大学の後援会であると思っています。

(広報部会 門間 由美)

仙台白百合女子大学 後援会ホームページ

活動内容が紹介されています。是非、ご覧ください。

検索 仙台白百合女子大学 後援会

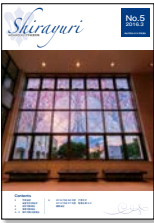
創立 50 周年記念事業 寄付金の募集

2016年には、仙台白百合短期大学として開学以来創立50周年を迎えます。節目の記念事業として施設整備等を行うことを目的に、寄付金の募集を行っています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

検索 創立 50 周年記念事業

後援会より卒業生へ 記念品贈呈

今年度も卒業生の皆様にお祝いの品といたしまして、実印の入る「印鑑ケース」をプレゼントしました。



制 作 者：榎戸悦
(仙台白百合学園卒業生)

設置場所：講堂ホワイエ
「Berries 木の実」(1988)
題は「ベリーズ」です。木の実を抽象してみました。ステンドグラスは四季折々、朝の光、夕暮れの光、晴れた日や曇った日、それぞれの光を一端飲んで、自ら美しく輝いていくのです。何よりもあのすばらしい窓一杯の自然と空のバックを壊してはいけないと念じつつデザインしました。晴れた日には、手作りの透明ガラスの部分が窓と同じくブルーに輝き、曇った日にはグレーに見えていきます。木や木の実のあの淡いピンクとグレーの色は、私の遠い少女の頃からの夢を追いかけている部分なのかもしれません。(同窓会報17号より抜粋)

仙台白百合女子大学後援会

〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号

TEL：022-372-3254

FAX：022-375-4343

E-mail：kouenkai@sendai-shirayuri.ac.jp